

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

投資の時代と云うけれど

(金融資産の現状と比較)

先月、日銀より、日本全体でお金はどう動いたかを示す資金循環が公表された。四半期毎に公表されるので特段珍しくもないが、家計(個人)部門の金融資産の動きも公表されるので、私達個人が、どれくらい金融資産を保有しているか、どんな金融資産を選択しているか、がよく分かる。「預貯金から投資へ」が云われて久しいが、同データよりここ20年余の個人金融資産の構成比率の推移を追ってみたのが下表である。

	現金・預金	保険・年金	株式・出資	債券	投資信託	その他
1979.3	59.4%	13.2%	13.8%	6.1%	1.3%	6.2%
1989.3	45.4%	19.4%	20.6%	6.1%	3.9%	4.6%
1999.3	52.4%	26.0%	10.7%	4.2%	2.2%	4.3%
2005.6	54.5%	26.9%	8.5%	2.9%	2.9%	4.5%

上記構成比率の推移から、1980年代にも「貯蓄から投資へ」という時代があったことが見てとれる。日本人の預貯金選好の強さばかりが頭にインプットされていたせいか、かつてそういう時代があったことが私には意外に思えた。しかし、あの東京バブルを思い起こせば、1989年に預金保有比率が45%迄落ち、株式保有比率が20%に乗せたとしてもそれほど驚くべきことではないのかもしれない。むしろ、超低金利の続く中で預貯金比率が徐々にその比率を高めてきた事実こそ驚くべきことなのかもしれない。現在の個人金融資産の配分率を見れば、投資の範疇に入る株式、債券、投信の合計保有比率が89年の比率(30.6%)まで戻るのには容易なことではないような気がする。やはり、預金優位の時代はこれからも続くと考えるべきだろうか。

私個人のことを云えば、預金(普通預金、定期預金)は殆ど持っていない。持つと云えるほどないのが実情なのだが、額の大小は別とすれば、預金をしていても仕方ないというのが正直な思いだ。持つ必要性を殆ど感じない。株式や投資信託等価格変動の高い商品に回した方が余程楽しい。そんなことから、現時点において幾つかの視点で各種金融商品を比較してみた。

	収益性	成長性	安定性	流動性	視点
預貯金	×	×			デフレとインフ
保険(貯蓄型)	×	×			保障と貯蓄
株式	×、	×、	×		銘柄選定基準
債券	×、	×	×		金利上昇と金利低下
投資信託	×、	×、	×		ファンドマネージャーのポリシー
商品	×、	×	×		国際商品動向
デリバティブ	×、	×	×		ゼロサムの世界

(海外の商品には為替変動リスクが加わる)

何年前か、米FRB議長グリーンズパンが、「日本人は信じられない国民である。毎年9%の割合で増えている政府債務の証書(国債)を、わずか1%台の金利で買っている」と云ったと伝えられたことを時々思い出す。グリーンズパンの嘲笑は、しかし見当違いだった。「わずか1%台の金利で」国債を買い続けてきた投資行動は、超低金利が続く中では決して間違いとは云えなかったのだ。同じ意味で、元本が保証された預貯金へ資金を置く行動もデフレ下では間違った選択ではなかった。

何が正しく、何が間違いかは、結局は結果判断するしかないのが投資の世界かもしれない。短期間ではあるがファンドマネージャーの真似事をした者としてそう思う。正直、投資は難しい。だから上表のようなものを作っても元々詮無いことではある。しかし、であればこそ、投資は楽しく、スリリングな方がいいと思うのだ。他人任せではない自分なりの考え方を持って行動したいと思うのだ。

Weekly Fax Report

《複製・転載等はこちらまでご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

2005.10.8(第481号)

TEL.0438-53-6092 FAX.0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp